



長崎青年協会会章
 我々は會員の団結と
 相互扶助の精神の基に
 自己の建設し
 會員の親睦を固め
 もって地域社会の発展に
 寄与する事を旨とする

NAGASAKI YOUNG GENERATION ASSOCIATION

社団法人長崎青年協会

スローガン 本気で語らい実行し、そして新たな歴史を創りだそう



今月の行事

- | | |
|-------------|--------------|
| 3月10日 定例研修会 | 19日 平和マラソン |
| 13日 次年度理事会 | 23日 卒業者を送る夕べ |
| 16日 理事会 | |

NYA press no.189
March 1995

3

発行 長崎市魚の町7-7
 (社)長崎青年協会
 編集 会長 藤田啓伍
 広報委員 長 猿渡

2月定時例会開催

テーマ：「今年度を振り返り次年度に引き継ごう」
平成7年2月21日(火) 於：ホテルニュー長崎

今月の例会は協会の各委員会の委員長とそのメンバー1人に各テーマを与え、3分間スピーチをしてもらいました。その内容を後日、各委員長にまとめてもらいましたのでご紹介します。



総務委員長 湯藤 正典君

今年は、委員長という初めての経験で、どの様に委員会をまとめて年度頭初、自分で決めた目標に向かっていくかという問題について考える1年間であり、とても意義の有る1年でした。



例会委員長 板倉 和人君

まず初めに、例会委員会のメンバーの協力で深く感謝します。例会の皆様の出席に御礼申し上げます。

広報委員長 猿渡 卓君

広報紙の御愛読いつもありがとうございます。事業報告の記事に追われた1年でしたが、今年度の思い出を飾ったアルバムとして大切にして下さい。



会員開発委員長 白山 光男君

会員獲得数の目標値は取えて定めなかった。その結果は10名入会、9名退会、4名卒業。退会希望者のフォローが不十分でした。



交流委員長 松尾 浩君

初めて委員長をやらせて頂き、メンバーにも恵まれ、懇親会、忘年懇親会等の事業もメンバーの協力によって無難にやれたと思います。又懇親会においては、会員皆様の御協力に感謝致します。



研修委員長 円能寺 隆君

全体研修及びソフトボールの委員会事業の時は一致団結してまとまりのよさを充分感じました。ただ残念なのは委員長としての仕事を個人的理由で充分でできなかったことです。

国際開発委員長 原 喜一郎君

今年1年間を国際開発に力を注ぎ、委員会のメンバーとも本音で語り合い、「留学生と市民の集い」にも良い成果が見られたと思います。



事業委員長 川原 哲也君

今年度は私自身委員長になるのが初めてで、期待と不安の中で動いていた。そのため委員会のメンバーには連絡、活動の中でかなり迷惑をかけました。



企画委員長 田中 潤介君

小人数ながら各々の地味を活かし、年当初に掲げた「走・攻・守」三拍子揃った委員会活動を目指したつもり。達成度は……ウーム、7割程度かな?次年度のさらなる活躍を期待します。



地域事業 平田 雄一君

私たちはふうせんバレー、もちつきを通して障害者とのコミュニケーションを重視してきました。当初の目標である「長崎県ふうせんバレーボール振興委員会」も発足でき、皆様の協力のたまものだと思います。

その他の会員でスピーチをされた方は以下の通りです。

倉田和彦君・鶴柴英俊君・松尾博一君・岩満克弥君・寺本正弘君・吉野忠幸君・吉田正幸君・金田芳裕君・櫻井俊郎君・田川清浩君

● 卒業者の思い ●

今年度の卒業者は、4名の方々です。そこで、卒業を迎えられて心に思うことを、語ってもらいました。



桑田 啓伍
S. 59入会

「今、一番たいせつなのは何ですか」と、問われたら、家庭・仕事・友と答えるのはだれしも同じことでしょうか、私の場合、この3つが良い状態で人生を歩めた事が、改めて幸せであったと思っています。

当然ながら、全てが最良でなかった時も多々ありましたが、そんな時に、友や家族に支えられたからこそ今、そう思えるのです。そのベースになるものを造ってくれたのが青年協会です。肩を張る必要はありません。素直に自分を出して、仲間として、ふれあえた時から、自分の成長があると思います。日々、馬鹿を言い合いながら、又、真剣な話をぶつけあい、時には、泣き笑いの人生を語り合う友がいる事。この事は、29才~40才までの大事なものでした。

これから長い時間がある現役会員もここに違った喜びを得ることでしょう。長い間お世話になった青年協会を卒業する事はさびしさと満足感がごっちゃになっていますが、はっきり言いきれぬ事は、『入会してよかった』という事です。この思いを胸に“卒業”していきます。

青年協会のみなさん、良い人生を本当にありがとう!!



合六 忠
S. 56入会

13年間一度もsleepingする事なく粉骨破身

協会の為には労を捧げた者としては惜別の時を迎え万感胸にしみる思いがあります。ふり返るに入会当時26才その時周囲の先輩達は35才前後気性が激しい方々ばかりで「こわい」の一言でした。同年代が少なく溶け込むにしても私には垣根が高い雰囲気であった事と覚えております。(現在は各々同級生がおり「いいな～」と感じます) 入会早々「インド魔術団長崎公演」の事業があり前売券割り当てで3万円(給料10万)自腹切り重ねてつらい事でした。ここらあたりから私の養虫生活10年間が始まります。例会出席率は3割、事業には参加しない惨々たる活動でよくぞ退会勧告が発せられなかったものです。そして養虫に春を告げ殻を破ってくださったのが森(会長)でした。そしてその年度4月例会時入会以来初めて前に出てマイクを持たされたのが井上章例会委員長でした。(勇気がいった事でしょう) その機を以て今日に至っては好き勝手なことを言いやかましいだけの存在に成り皆様たいへん御迷惑おかけ致しました。

在籍13年活動歴3年今日の私を恨む方がおられましたら森、井上両氏に鋒先を!!両名のもとで生まれ親のように指導して下さったのが白山副委員長でしたね。全く異質のタイプなのによく互いに自嘲しあったのだと回顧します。省みるにすばらしい仲間に恵まれた13年間でした。皆様をお願いするならば若者らしくのびのびと真正面から事に当たって歩んで頂きたいと思えます。おわりになりますますが皆様に涙ながら感謝申し上げます。ありがとうございました。合掌



船津信三郎
S. 62入会

いよいよ卒業となり、何とも言えない複雑な気持ちです。当協会においては、いろいろな事を、勉強させていただきました。個人のレベルでは不可能と思われる事も、個々の力を結集すれば素晴らしい事業が出来るという事を青年協会は教えてくれました。そして、良き先輩、後輩と知り合う事が出来た事は、これからの人生において、素晴らしい財産となる事でしょう。さて会員としての8年間を振り返ると、全力投球までは出来ませんでした。自分なりに取り組んできたと思っています。私としては、やはりおくんち広場が一番好きでした。入会してから8年間ずっと、飲食コーナーの仕込みをしてきました。共に汗を流し、いろいろな事業をやり逃げた後の皆と飲むビールがなんと

うまかった事か!! 8年間、本当にお世話になりました。今後の青年協会の発展を心よりお祈り申し上げます。



中村 善人
S. 58入会

青年協会の皆様、長い間大変お世話になりありがとうございました。長いようで短い12年間でした。今思えば、もっともっと積極的に活動に参加しておけば良かったという気持ちもありますが、自分なりに納得して卒業させていただきます。20代～30代の大切な時期に協会の皆様と知り合えた事、一緒に活動できた事に感謝し、それと今まで、協会活動を認めてくれた妻、子供達に感謝しています。

今、私は卒業を前に仕事を変える事を決意しました。大変なやみましたが、最後に決断させたのは、皆様との活動を通じての、やれば出来るという事が、私に勇気を与えてくれました。今後、多くの苦勞が待っていると思いますが、今まで、お世話になった人々に感謝の気持ちを忘れる事なく頑張っていきたいと思ひます。
今後共、青年協会の皆様の御活躍を心よりお祈り致します。

海外考察研修旅行

我々、国際開発委員会は、海外研修に対して、交流とちがうニュアンスでとらえ、開発ができないものかと、文化、言葉、生活習慣等を考察できる研修旅行を目的とした旅になる様にと考えました。

台湾でも南部商工業の中心で、南部台湾の大玄関。最大都市、最大の観光都市でもある高雄市と近郊。

製鉄、造船、セメント、精油、肥料、各種機械、耕耘機、塩化ビニール、プラスチック、木材加工、石油工業、火力発電などの大工場が林立し、台湾の大工業の半数以上がここに集中しています。

構成は、モンゴル人、中国人、韓国人、現地人及びタイヤル族、タカサゴ族などの部族の集落が現在も観光地としてあります。さまざまな人種が企業に根づき、国際的に日本へも留学し、日本の技術も学び現代に役立てています。又、日本語も、観光に力を入れているのででしょう、流暢でした。

台北市の郊外、外双溪に建ち、世界四大博物館の1つにあげられている、国立故宮博物館を見学しましたが、ここは、台湾観光の最も重要なポイントです。

中国5000年の歴代の王朝に伝わる文物や、絵画、書、陶磁器、玉器、彫刻などの国宝芸術品を70万点以上収蔵し、常時8000点が展示されています。

又、企業なども考察いたしました。「沈氏藝術印刷股份有限公司」の営業部専員 李進能氏から説明を受けましたが、日本円に換算して現在年商50億。1年々15%の成長を上げています。最新の機械にて製造し、コンピューターはマッキントッシュ導入、残業せず8時間労働、土曜日は半日間業務と言われていました。

説明を受けながらも、日本とも技術提供しあえる交流を持ち、日本の（長崎の）発展にも拡張できるものだと考えたのは私だけではないはずです。

国の魅力を最大限に観光に取り入れ、満足のいく対応が100%以上に人間の心奥深く浸透させようとする努力をも伝わり、輝きのある国ではないでしょうか。

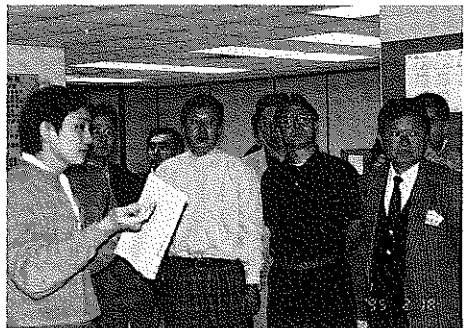
2泊3日の50時間と短い日程ではありましたが、目的を全てクリアでき、とても素晴らしい思い出深い海外考察研修旅行でした。

最後に、参加していただきました皆様、本当におつかれ様でした。又、ありがとうございました。

国際開発委員会 原 喜一郎 委員長
1995.2.17～19in台湾



故宮博物館前にて記念写真



沈氏藝術印刷股份有限公司の営業部専員
李進能さんより会社説明を受ける協会会員

兵庫県南部地震義援バザー

2月4日(土)浜町アーケード三菱銀行前で、兵庫県南部地震の義援バザーが行なわれました。バザーの商品は、協会の会員やOB方から寄せられた約500点が並びました。この日は、午後1時からバザーを行う予定でしたが、アーケードを通行する買い物客の強い要望があり午前11時に早まり、午後1には完売となりました。バザーの結果は以下の通りです。

バザー売上金	231,361円
募金箱	78,481円

これらを義援金として送らせてもらいます。



大盛況の人だかり

赤ちゃん誕生 おめでとう!

- ・増崎 ^{はるか} 春佳ちゃん
- ・第1子 長女
- ・H. 6年12月29日
午後2時1分 出産
- ・3,014g
- ・早く大きく育ってもらい一緒に遊びたい。
- ・パパ 増崎 進一 氏



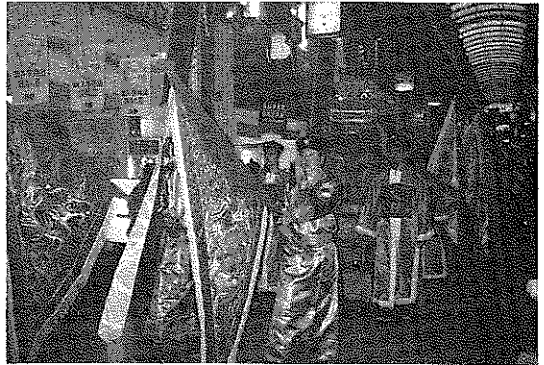
- ・木下 ^{みさと} 美里ちゃん
- ・第1子 長女
- ・H. 7年2月16日
午前2時35分 出産
- ・2,680g
- ・顔が私に似ていたので、本当に自分の子供だと思った。
- ・パパ 木下 拓也 氏



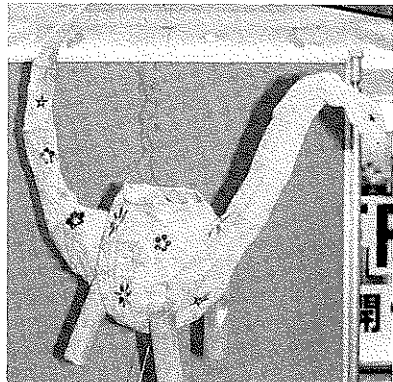
長崎ランタンフェスティバル・コンテスト

1月28日(土)~2月12日(日)に、長崎ランタンフェスティバルがありました。恒例となったこの祭りに我々青年協会の会員も、この祭りの皇帝パレード(2月3日~5日に行なわれた。)に参加し、崇福寺前から浜町アーケードを通り、会場である湊公園へと向かいました。また、ランタンコンテストでは、会員の張仁春君が見事に第4位となりました。

本人いわく、2作出品したが、自信のなかった方が受賞してしまったそうです。

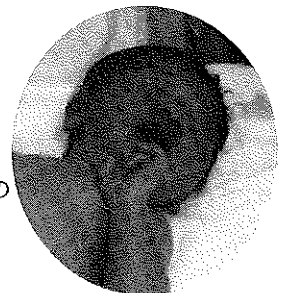


アーケードに行くパレード



受賞したランタン

- ・沖迫 ^{りょうせい} 亮介くん
- ・第3子 次男
- ・H. 7年2月2日
午後11時47分 出産
- ・2,786g
- ・男の子が欲しかったのでよかった。
- ・パパ 沖迫 司 氏



◁ 新人紹介 ▷



地島 秀君

S. 36年10月14日

勤務先 有限会社 カネチ本舗
長崎市中小島2丁目5番地21号

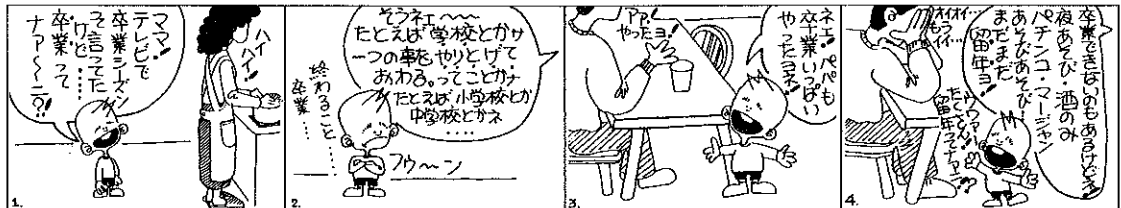
自宅 長崎市田上町313番地18号
家族 妻 由美子さん 子供2人

平成6年度 新人総括研修

新人一同

来る3月23日の卒業生を送る夕べに向けて、卒業予定者、中村、合六、船津、桑田、4先輩の長期にわたり青年協会に貢献されたことに感謝の意を込めて、記念品（4先輩の思い出のビデオ）の作成に我々新人5名（松尾博、松尾俊、松本、桑岡、地島）で取り組んでおります。

1本、2時間がかかりで観賞したテープが13本、そして過去のスナップ写真をビデオに収める作業と、なかなかの時間をついやしながら、白山、平田両委員長の協力を得てがんばっております。



● 甦れ！歴史人物100選 (表紙説明) ●

今月で、歴史人物100選も最終回になりました。今回は、1年間を振り返った総編集とします。

先月までご紹介できたのは、21人。100選とすると約1/5の数でしたが、これまでに見たことのある写真、はじめて見る写真さまざまだったと思います。しかし、いろんな分野で長崎や日本に大きな影響をあたえたパイオニアがこんなにも沢山身近にいたことを再認識して頂けたら幸いです。

最後に、明日の長崎を築く子供たちが、長崎の町並みを散歩しながら、先人たちの業績に触れることができるような街づくりを期待して最終回とします。

紹介した人々；坂本龍馬、陸奥宗光、勝海舟、榎本武揚、シーボルト、楠本いね、上野彦馬、杉亨二、トーマス・ブレーク・グラバー、倉場富三郎、岩崎弥太郎、後藤象二郎、大浦けい、小曾根乾道、本木昌造、松田雅典、大隅重信、福沢諭吉、ガイド・ヘルマン・フリドリッ・フルベッキ、伊藤博文、井上馨